

第8回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日時 令和元年11月14日（木）17時30分～19時30分
会場 武蔵野プレイス4階 フォーラム
出席者 板垣文彦委員、北村淳子委員、嶋田晶子委員、白田紀子委員、花田吉隆委員、
牧野篤委員○、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員、福島文昭委員
○副委員長
※委員長欠席のため、委員会設置要綱第4条4項により、副委員長が司会進行を行った。

資料 資料1 武蔵野市生涯学習計画 中間まとめ（案）
資料2 第7回委員会での主なご意見と対応
資料3 パブリックコメント周知イベント（12月15日）について

次 第

1 計画の骨子案について

事務局より、資料1・資料2を用いて第7回委員会からの中間まとめ（案）の変更点について説明を行った。

基本理念について

副委員長 本文とともにキャッチフレーズについても意見をいただきたい。

委員 新しい計画の理念を一言で表すものとしてキャッチフレーズはあってよいと思う。本文については文中に「個人の学びがだれかに強制されることなく…」という文言があるが、「強制」を「強いられることなく」など、柔らかい言葉に変更いただきたい。

委員 「強制」という言葉を柔らかくすることは賛同する。前回の会議で、変わることを個人に強いることはあってはいけないという趣旨の発言をしたかと思う。ただ、自分から学びたいと思うように促すことは大切だと思う。そのためには知的好奇心を持てるような学習環境を用意することが大切だと思う。

副委員長 キャッチフレーズに「学び送り」という言葉を使うのであれば、早い段階で用語を説明する等の工夫が必要ではないか。

副委員長 「○○のための」という言葉があるために、個人の学びを地域の学びに生かさなければいけないように読めてしまう。個人の学びが自然に社会に結びつくように考えられないか。そうすると、個人の学びが武蔵野市をつかっていくことにつながる。

委員 生涯学習を始めようとする人には「学び送りあい」は重い。入口が狭まってしまいうように思う。文言を変更するか、キャッチフレーズを掲げない方

- 委員 　　がよいと思う。あと、「武蔵野」ではなく「武蔵野市」が適切だと思う。
- 委員 　　入口を狭めるということはその通りだが、やはり「学び送りあう」は核なので外せないと思う。「武蔵野」は自分も修正する方がよいと思うが、そもそも不要かもしれない。
- 委員 　　キャッチコピーはあった方がよいが、「わたしたちがつくるまち」を「豊かなまち」にするなど、どのようなまちを目指すのかを示せるとよい。最初に指摘のあった「個人の学びがだれかに強制されることなく…」は、自分も不要だと思う。
- 委員 　　キャッチコピーには、「学び送りあい」以外に、個人が学ぶことは含まれないのか。市民一人ひとりが学ぶことによって輝くというような趣旨が入るとよいと思う。市民一人ひとりに始まり、市民同士が学び合い、そしてまちにつながるという段階が示せるとよい。
- 副委員長 　それがまさに「学び送りあい」なのではないか。
- 委員 　　「学び送り」の前に一人ひとりが学ぶということがある。それをキャッチフレーズに書き込むことはできないか。
- 副委員長 　自分の学びが結果的に社会につながっていくことが「学び送り」だと思う。目的を持った学びにつながる表現を避けるとよいのではないか。「個人のための学び」「社会のための学び」ではなく、個人の学びが自ずと社会につながるという考え方でいいのではないか。
- 委員 　　「学び送り」とは強制されているように思う。現在のキャッチコピーの方が柔らかくてよいと思う。
- 委員 　　社会教育において「学び送り」という用語はあるのか。
- 副委員長 　武蔵野市の造語であり、ユニークだと思う。ただ、目的があるような書きぶりは避けた方がよい。「個人主義」という言葉も「利己主義」のように変更した方がよい。キャッチフレーズはそのままにして、本文を個人が学ぶことから「学び送り」が始めるという書き方に変更してはいかがか。
- 委員 　　「わたしたちがつくるまち」において方向性を示すという意見があった。それを踏まえて「学び送りあい、創造性あふれるまち、武蔵野市」に変更するのはいかがか。イノベーションがないことが経済的・社会的な停滞の原因の一つである。施策においてSTEAM教育を位置づけているので、整合性も図れると思う。
- 委員 　　「学び送り」だけになっているという指摘については、たとえば「学びを広げ、送りあい」など、学びの段階を踏むように変更してはどうか。また、「わたしたちがつくるまち」の方向性が分からないという指摘については、相互に認め合い、自己肯定感がもたれ、相互理解が進むことが念頭に置かれていると捉えると「違いを認めあえるまち」といった変更もあり得るか。
- 委員 　　「送る」という言葉には次世代に送るような印象を与える。ただ、書かれている内容は、学びが響くようなイメージではないか。「つくるまち」の方

については「創造するまち」の方がよいと思うし、さらに文化資産をつかっていくというニュアンスがあるとよいと思う。

副委員長
委員

「学び送り」はやはり次世代に送る印象が強くなるか。
基本理念の本文に「学び送り」の説明は書かれており、次世代に送るという意味ではないということは分かる。本文で説明されているので、キャッチフレーズに「学び送り」という言葉は残した方がよいと思う。

委員

キャッチコピーとしてはよいと思う。説明は本文に書いてある。キャッチコピーは関心を惹くためのものなので、「何かな？」と思われるような、今の案がよいと思う。

委員
副委員長

そうであれば本文の冒頭の方で「学び送り」の定義をした方がよいと思う。
それではキャッチフレーズに「学び送り」はそのまま用いるとして、本文を修正するという対応でよろしいか。

(一同賛同)

副委員長
委員

それでは「わたしたちがつくるまち」についてはいかがか。
平田オリザ氏が身体的文化資産という話をされており、気になっているところである。ただ、「文化資産」では堅苦しく、「文化をつくる」では広すぎると思う。

委員

「わたしたちがつくるまち、武蔵野」はいかにも定番である。求められているのは、どのようなまちを生涯学習でつくるのかということだ。具体的に書き込むべきだと思う

副委員長

「わたしたちがつくるまち」は、市民がイニシアティブをとることをイメージしていたのだと思う。たとえば「個人が輝くまち」というような言葉でもいいのかもわからないが、相互の関係性にも触れられるとよいと思う。

事務局

メールで意見をいただく期間もあるので、それまでにお気づきであれば提案いただきたい。それ以降は正・副委員長に一任というかたちで決めさせてもらいたい。

施策体系について

副委員長

現在の計画に比べてかなりシンプルになってはいるが、いかがか。何もないうりようであれば、次に進みたい。

基本方針1について

委員

資料1のP19の特色と課題の内容はすべて行政が取り組むことと市民は理解される。ただ、施策は「検討します」と結ばれており、あいまいである。年次計画を示すなど、実行する道筋を示してもらいたい。
また、生涯学習の活動状況がどのようになればよいと思っているのかを書き込んでもらいたい。また、コミュニティセンターがあることを踏まえた方針や施策が示されると、武蔵野市らしさが出ると思う。

- 委員 計画策定の初期段階で、今回の計画は施策の方向性を示すという説明があったと思う。自分は、今回の計画はそれでよいと思う。また、「検討します」は比較的少ないのではないかと思う。
- 委員 基本的な方針が示されるものだと思うので、具体的な内容は別途資料で示せばよいと思う。
- 副委員長 事務局長 この計画に基づき、実施計画をつくっていくのではないか。
事務局長 武蔵野市では毎年度事業計画を立て、それに基づいて予算を組んでいくことになる。本計画の下位計画を策定することはない。

基本方針2について

- 副委員長 施策の方向性2-1についてはいかがか。
- 委員 地域五大学と書かれているが、具体的な大学名を示した方がよい。
- 事務局 資料編にて用語説明を行っているので、そのことが分かるようにしたい。
- 委員 「水の学校」が削除されているのはなぜか。
- 事務局 環境啓発施設が完成すると、「水の学校」は「環境の学校」という事業に発展するためである。
- 副委員長 ステップアップ講座は、現状、講座は2種類なのか。そうでなければ、たくさんあるということが分かる文言にした方がよい。
子どもの関係としてコミュニティスクールについて言及することはできないか。
- 委員 武蔵野市においては、コミュニティスクールを積極的に導入することはないと議論してきた。これから改めて検討していく予定だが、現段階ではコミュニティスクールという言葉は使わない方がよい。ただ、固有名詞を使わずに学校と地域が連携していくということは書き込めるかもしれない。
- 副委員長 了解した。
- 委員 子どもたちの生涯学習事業を行うにあたっては学校と調整するという趣旨である。
- 副委員長 コミュニティスクールでは協議会を立ち上げないといけませんが、子どもの学習機会を地域でつくっていくという視点で考えてはどうか。
- 委員 学校地域コーディネーターが活動してくれているが、生涯学習分野で書き込むことは難しいかと思う。
- 事務局 学校地域コーディネーターについては施策の方向性3-3で触れている。
- 副委員長 次に施策の方向性2-2についてはいかがか。
- 委員 主な施策にある「改善」とは、どのように変えていこうとしているのか。助成金を出そうというのか、それとも自立を促すのか。
- 委員 中間まとめの文章では、助成金については何が課題なのかが分からない。そのため、ここでは改善の方策を考える必要があると書くべきだと思う。また、支援制度の改善でよいのかということも考えるべきだろう。資金面

での支援が十分でないことが問題なのか、考える必要がある。そのような検討を行うことを示すとよいと思う。

委員 「改善」というと、これまでの制度が悪かったように感じる。時代にあった制度に改革していくという考え方がいいのではないか。

委員 事業概要をみると、支援制度の活用が十分になされていないように思う。支援内容に魅力がないのか、制度が周知されていないのか。

副委員長 細かい話をしすぎると議論が進まないので、意見を踏まえて事務局に検討いただくものとしたい。次に施策の方向性2-3についてはいかがか。内容的に問題なければ、基本方針3に移りたい。

基本方針3について

副委員長 施策の方向性3-1についてはいかがか。

委員 「学び送り」と「学びおくり」が混在しているので、共通させた方がよい。

副委員長 基本方針で用いる場合は、動詞をひらがなで用いているので、それに合わせたのだろうと思うが、いかがか。自分はひらがなにすると「贈る」という意味でも読めるので、よいとは思う。

委員 自分もひらがなでいいと思う。

委員 「恩送り」から着想したのであれば、ひらがながよいと思う。

副委員長 それではひらがなの「学びおくる」で統一いただきたい。

委員 主な施策「学んだ人が講師になる制度の検討」は具体的にどのような制度をイメージしているのか。

また、「次世代の地域の担い手」については、子どもばかりだけでなく、40～50代を次のまちの担い手として着目する必要もあると思う。

委員 子どもの頃から地域に対する意識を持ち、その上で大人になっていくことが大事だと思う。

委員 60代にも着目するべきだろう。60代は「学び送り」をしたいと思っているはずであり、ふさわしい人もいる。そのような人がいる中で、講座に参加しないと講師になれないのはいかがかと思う。

委員 「制度」よりも「仕組み」の方が、想定している事業にふさわしいのではないか。認定制度を立ち上げるわけではなく、講座に参加した人が誰かに教えることを促していくということと理解している。「学び送り」はそのような自然な行いだと思う。

次世代については、中学生の頃の地域とのつながりがリタイアしたときにつながると期待したい。ただ、40代のような忙しい時期においても地域に関われるような内容に変更することはよいと思う。

副委員長 現役世代にも働きかけることで、地域に関わる方向性が見えるようにした方がよいという意見と理解した。

委員 「学んだことを教えていく仕組み」と書かれているが、「学んだことを広げ

- ていく仕組み」程度の表現が望ましく、また現代的である。
- 委員 それに関連すると施策名称にある「講師」も堅苦しい。
- 委員 リタイアした人間にとっては肩書きがあった方がインセンティブになると思う。「講師」ではなくてもよいが、何かあればよいと思う。
- 委員 行政が何かを教えることができる人をリスト化して、教えてもらいたい人に向けて発信するようなことがあるとよいと思う。行政が教えたいと思う人を募ることもできる。
- 副委員長 行政が人材バンクのような仕組みをつくるという話があったと思うが、それを運営している自治体でも活用されていない事例が少なくない。マッチングの仕組みも含めて検討していくというように考えた方がよいと思う。次に施策の方向性3-2についてはいかがか。
- 委員 生涯学習と市民活動の違いがよく分からない。相互の連携強化を図るというが、それぞれを異なるものとして捉えること自体が分からない。それぞれの定義を明確にしてもらいたい。
- 副委員長 行政内部の分掌もある中で、武蔵野プレイスにおいて横串を刺そうという考え方になると思うので、事務局の方で文章を検討いただきたい。施策の方向性3-3についてはいかがか。
- 委員 「令和2年度より始まる新しい学習指導要領…」とあるが、段階的に施行されるものなので、表現は検討いただきたい。たとえば「これから始まる」といった表現になるかと思う。

基本方針4について

- 副委員長 それでは施策の方向性4-1についてはいかがか。何もなければ施策の方向性4-2、4-3に移っていききたい。
- 委員 情報提供だけでなく、情報収集にも取り組んでもらいたい。生涯学習活動の現場に足を運んで、ニーズを把握していく必要があると思う。
- 委員 情報収集が不足しているということであれば、施策の方向性2-2などに位置づけた方がよいと思う。あくまで4-3は情報発信に集中した方がよいと思う。
- 副委員長 情報収集には、生涯学習に取り組む団体の情報を交流するために活用していくということも含まれているのか。
- 委員 生涯学習は自主的に行うものだというが、やはり後押しが必要である。そのためにはニーズが把握されないといけないのではないか。
- 副委員長 ここでは、あくまで情報提供を取り上げるものだと思うが、地域で活動する団体の情報を発信することも取り入れてもらえればと思う。ただ、情報収集については、別に位置づけるということがよいように思う。最後に施策の方向性4-4についてはいかがか。企業との連携に触れられているが、NPOなど、様々な団体との連携もあり得るのではないか。

委員 他地域との連携も含めてもらいたい。

副委員長 それでは、これですべての基本方針の検討を終えることとしたい。事務局では、パブリックコメントに向けた修正を行ってもらいたい。

2 事務局からの連絡

事務局より、パブリックコメントならびに次回策定委員会の日程について説明を行った。